

南薩教育事務所だより

令和7年10月発行

「学習者主体の授業」と学力の定着～両者を結び付ける授業デザイン～ 指導課長 川畑 浩二

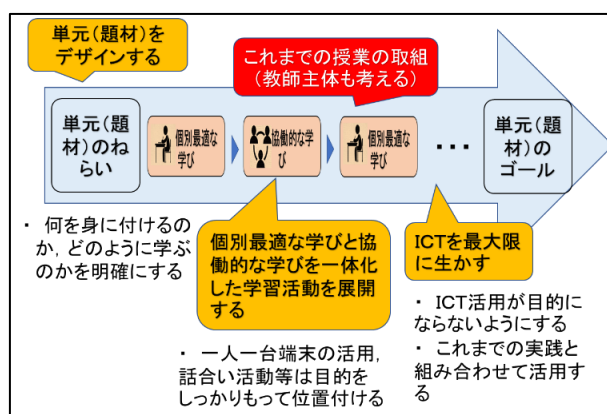
「学習者主体の授業」に取り組んで、丸2年が経ちます。各学校では、児童生徒が自ら考え、話し合いながら学ぶことで主体性や問題解決力を育てる授業を目指しています。授業参観をさせていただくと、児童生徒が自ら学習課題を設定し、解決方法を選択・決定する学習活動や一人一台端末を活用して調べ学習や発表・討論する学習活動などを多く見るようになりました。各学校で「学習者主体の授業」の重要性を理解し、児童生徒の実態に応じた取組が進んでいる状況といえます。

しかし、全国学力・学習状況調査の地区の結果を見ますと、全国平均を上回るまでには至っていません（教科の正答率、観点別正答率ともに全国平均を下回っています）。このことは「学習者主体の授業＝学力向上」ではないということが明確であり、単に児童生徒が主体的に動いているだけでは、学力が十分に身に付かないことを表しています。

では、「学習者主体の授業」と「学力の定着」を結び付ける鍵となるものは何でしょうか。それは、「授業デザイン」です。授業デザインとは、授業の目的や流れを計画し、教師の指導と学習者の主体的な活動をバランスよく配置していく授業構想のことです。授業デザインを行わない授業は、例えば、算数・数学の授業で、児童生徒が自由に意見を出し合っても、教師が身に付けるべき概念を丁寧に説明しないと、誤解や理解不足が広がってしまいます。その結果、学力として定着しにくくなります。また、教師の説明ばかりの受け身の授業も、児童生徒の主体性が育ちにくくなります。だからこそ、教師の的確な指導（教師主体）と児童生徒の主体的な活動（学習者主体）のバランスが取れた授業デザインが不可欠となります。

当事務所として、これまで授業デザインについては、右図を示して説明しているところです。授業デザインの作成手順例として、①身に付けたい資質・能力を明確にする。②ゴールを設定する。③学習課題を設定する。④ゴールまでの学習活動を考える。⑤1コマごとの授業を考える。ことを説明しています。また、図には示してありませんが、小テストや振り返りで理解度を把握し、評価とフィードバックを繰り返すことも意識した授業デザインを行うことで、「学習者主体の授業」と学力の定着が結び付いていくことも説明しています。

改めて、先生方にお伝えします。「学習者主体の授業」の実現に向けて、「主体的に学ぶ」ことだけに満足（「学習者主体の授業」を行うこと自体に満足）するのではなく、児童生徒の理解を確実に深めるために、計画的でバランスのよい授業デザインを実践してほしいと思います。教師主体の指導と学習者主体の活動が調和した授業こそが、真の学力向上をもたらします。



(授業デザインのイメージ図)

事故の未然防止に向けて

学校における事故においては、職員の負傷も発生しております。注意していたら、未然に防止できたものがあつたかもしれません。「もしかしたら、負傷につながる事故が発生するかもしれない。」と、常に意識をもちながら行動する必要があります。

南薩地区における、過去3か年の負傷事故の主なものは以下のとおりです。同様の負傷事故が発生しないよう、日頃から注意しましょう。

- | | |
|------------------------------|---------------------------------------|
| ○ 学校行事等 | ○ 校内の移動中 |
| ・ プールの清掃中に足を滑らせ転倒 | ・ 階段を踏み外し転倒 |
| ・ 体育大会の準備中、テントの支柱で負傷 | ・ 階段を上がる途中で転倒 |
| ・ 運動会の設営中、砂場で転倒 | |
| ○ 授業中 | ○ 部活動等 |
| ・ 児童の机と椅子に足が引っかかり転倒 | ・ バレーボールの指導中、生徒が打ったボールが壁に跳ね返り、右目に直撃した |
| ・ 児童同士の喧嘩を仲裁した際、振りほどかれ膝を蹴られる | ・ ソフトバレーの実技研修中、ジャンプ時にアキレス腱の断裂 |

- 事故につながる状況はないかなど、細心の注意を払いましょう。
- 過去の負傷事故の事例や、ヒヤリハットの事例から学びましょう。
- 運動中の事故に注意しましょう。
- 転落や転倒事故に注意しましょう。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果が7月末に公表されました。南薩地区については、小学校理科が全国平均を上回りましたが、それ以外の教科では全国平均を下回る結果となりました。知識・技能、思考力・判断力・表現力についても小学校理科は全国平均を上回りましたが、それ以外の教科では全国平均を下回る結果となっています。

知識・技能については、小学校では概ね60%を超えていますが、中学校国語では50%を下回っています。思考力・判断力・表現力は、特に、算数、数学において、正答率が50%を下回っており、算数は50%を、数学は40%を下回る結果となっています。

また、児童生徒質問紙の結果から、小学校算数、中学校国語、数学において、「授業の内容はよく分かる」という質問に対し、否定的な回答をした児童生徒の割合が20%を超えていました。

2学期以降、学習者主体の授業づくりを推進するとともに、地区の課題である知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力を高める取組を充実させていきます。

【全国学力・学習状況調査結果】※表内の数値は全国結果との比較値

	国語	算数・数学	理科
小6	-2.5	-3.2	2.4
中3	-2.2	-2.7	-16.3

魅力ある学校づくりの推進

児童生徒にとって学校生活の大半は授業になります。その授業が児童生徒にとって楽しく、自己存在感を得られるものであるならば、児童生徒は進んで学び、自己指導能力を高めていくことにつながると考えられます。生徒指導提要（文部科学省）において、「授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場であり、教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりは、生徒指導上の4つの視点を意識した実践である」と示されています。

南薩地区でも4つの視点を意識した授業と生徒指導の一体化を図り、「魅力ある学校づくり」を推進しています。

【4つの視点】

- 1 自己存在感の感受を促進する授業づくり
- 2 共感的な人間関係を育成する授業
- 3 自己決定の場を提供する授業
- 4 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業

南さつま市立加世田中学校が、令和6・7年度鹿児島県教育委員会指定「魅力ある学校づくりプロジェクト」研究協力校として、「自立した学習者の育成～協同学習等を軸とした個別最適な学びの推進～」を研究主題にした取組を11月7日（金）に公開します。詳細は、公開案内を御覧ください。

研修を通して学ぶ社会教育

6月26日（木）に地区PTA役員等研修会を開催しました。公益社団法人日本PTA全国協議会会長太田 敬介 氏をお招きして、講話をしていただきました。

講話では、「PTAの歴史と描く未来～大人も子供も笑顔で支え合い～」と題して、PTA発足当時の歴史や現代も変わらない子供の成長を願う保護者の思い、時代の変化に伴うこれからのPTA活動について分かりやすくお話ししていただきました。自校のPTA活動の在り方や取組について、大変参考になる内容でした。

また、7月3日（木）には、南薩地区社会教育担当者研修会を開催しました。鹿児島市手をつなぐ育成会障害福祉サービス事業・放課後等デイサービス事業所施設長 喜岡 達也 氏をお招きして「社会教育でウェルビーイングを！～地域と人のしあわせを育む社会教育の力～」子供から高齢者までそれぞれのしあわせにつながる社会教育の役割、地域の人材を活用したCSや地域学校協働活動についての具体例を紹介していただきました。社会教育の担当者は、地域の人、もの、ことを『つなぐ』役割を担っています。これからも学ぶ機会を大切にしながら、家庭、地域、学校それぞれの教育力が高められるよう研修会の充実を図っていきます。



「体力アップ！チャレンジかごしま」前期申告状況

「体力アップ！チャレンジかごしま」の前期日程が終了し、南薩地区の申請状況を以下の表にまとめました。南薩地区の本事業への取組率は大変高く、学校申告率 100%は当然のごとく達成され、学級申告率も県平均と比較すると大きく上回っています。

本事業の趣旨は、「本県児童生徒の運動習慣の育成や体力向上を図るために、各学校の実態に応じて体育や特別活動等の授業及び業間・昼休み・放課後等の時間帯に、仲間と楽しく集団で協力し合いながら運動に取り組むことにより、好ましい人間関係や社会性を育成し、積極的に外遊びや運動する機会を奨励する」となっています。

前期に取り組んだ学校においては、趣旨にある効果を児童生徒は得ることができたのではないのでしょうか。

	小 学 校・義務教育学校（前期）		中 学 校・義務教育学校（後期）	
	学校申告率	学級申告率	学校申告率	学級申告率
地区（Ｒ７） ※前期（４/１４～７/１８）	100% (37/37)	94.2% (242/257)	100% (17/17)	94.4% (85/90)
地区（Ｒ６）	100% (38/38)	87.2% (224/257)	100% (17/17)	98.9% (91/92)
県（Ｒ６年間申告）	98%	83%	95%	78%

また、多種目に挑戦することで、小学生はそれらの動きを習得する機会、中学生は調整する機会になります。１つの種目に挑戦しランキング入りを目指すことで意識付けを図ることもよいのですが、生涯スポーツに向けたよりよい資質・能力の育成の観点から是非多種目への挑戦をされてください。以下は、全学級が２種目若しくは３種目以上に挑戦している学校です。

後期の実施期間は、９月１日（月）～１２月２４日（木）です。児童会・生徒会によるレクリエーションや全校体育に取り入れるなど、全学級が実施できるように全校体制での取組をお願いいたします。

	小 学 校・義務教育学校（前期）：37 校	中 学 校・義務教育学校（後期）：17 校
2 種目以上の取組 (200%以上)	15 校	12 校
3 種目以上の取組 (300%以上)	指宿市立川尻小学校 南九州市立高田小学校 南九州市立清水小学校 南九州市立大丸小学校	枕崎市立別府中学校・枕崎市立立神中学校 指宿市立西指宿中学校・指宿市立山川中学校 南さつま市立加世田中学校・南さつま市立大笠中学校 南さつま市立坊津学園・南九州市立額娃中学校 南九州市立川辺中学校

校内支援委員会の充実に向けて

各学校においては、定期的に校内支援委員会を開催し、支援体制の構築や支援内容について、検討や確認、学びの場の検討などをしていただいていると思います。支援を必要とする児童生徒への確実な支援の実施に向けて、児童生徒の教育的ニーズを踏まえ、どのような支援を必要としているのかを把握し、対応策を検討することが重要です。以下のことについて、校内支援委員会で確認をするよう努めてください。

【確認事項】

- ・ 通常の学級において、学級全体に対して分かりやすい授業の工夫を行う（UDの視点による授業づくり）。
- ・ 学習指導要領解説「指導計画の作成と内容の取扱い」に示されている「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」と「手立て」の例を参考に、通常の学級における授業づくりの工夫改善に努める。

※ 小学校学習指導要領解説 国語 P159 より

【文章を目で追いながら音読することが困難な場合】

自分がどこを読むのかが分かるように教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなどの配慮をする。

【自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な場合】

児童の日常的な生活経験に関する例文を示し、行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせたり、気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示したり、気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどの配慮をする。

- ・ ICTを含む合理的配慮の提供、特別支援教育支援員の配置などにより十分に学べるのかを検討する。
- ・ 特別支援学校のセンター的機能の活用や外部の専門家と連携しながら支援する必要があるのかを検討する。

校内支援委員会を充実させ、児童生徒のニーズを踏まえた支援を実施して下さるようお願いします。

「不登校（傾向）児童生徒への対応」や 「校内の生徒指導体制」等について

1学期に、学校支援専門官による学校訪問として、各市、数校ずつ訪問させていただきました。それぞれの学校の現状について詳しく話を聴かせていただきました。御協力ありがとうございました。

各学校においては、不登校（傾向）児童生徒への対応や保護者対応、校内の生徒指導体制等に懸命に取り組まれていることを把握できました。そのような各学校の抱える課題解決のために、2学期も10月下旬から11月中旬にかけて、学校支援専門官による学校訪問を行う予定です。「何か支援を必要としていることはないか？」という視点で、聴き取り等を計画していますので、困っていることなどありましたら御相談ください。